



日耳鼻医会

FAXニュース

平成26年6月4日発行 第215号

◇平成26年度定時代議員会・総会予告

下記の通り開催しますので関係者はお集まり下さい。

日時：平成26年6月29日 午後1時～

会場：ベルサール八重洲（東京駅近く）

（中央区八重洲1-3-7八重洲ファーストフィナンシャルビル2F・3F）

会次第

第1部 代議員会・総会（13:00～16:00）

1. 講演 「今どきの患者トラブルの特徴と対処法」
大阪府保険医協会事務局次長 尾内康彦氏

2. 仮議長選出、議長団選出

3. 報告 平成25年度庶務報告及び事業報告

4. 議事 下記各号議案についての承認を求めめる件

第1号議案 平成25年度収入・支出決算

第2号議案 平成26年度事業計画（案）

第3号議案 平成26年度収入・支出予算（案）

第4号議案 平成26・27年度役員選出

第5号議案 平成26・27年度顧問委嘱

5. 第39回臨床家フォーラム担当挨拶

6. 第40回臨床家フォーラム担当挨拶

7. 新役員挨拶 その他

第2部 懇親会（16:00～17:00）

八重洲富士屋ホテル閉館のため会場が例年と違って
おりますのでご注意ください。

※「中四国フォーラムin倉敷」ご案内※

第39回臨床家フォーラム「中四国フォーラムin倉敷」を下記の通り開催致しますのでお知らせ致します。

日時：平成26年9月14日（日）～15日（月）

会場：倉敷芸文館（講演会）倉敷アイビースクエア（懇親会）

一日目

※「小児急性中耳炎の診断・治療 up to date」

宇野芳史先生（宇野耳鼻咽喉科クリニック）

※「耳鼻咽喉科領域における漢方治療」

～イラストでわかる！まずは使ってみよう漢方薬～

下手公一先生（斐川中央クリニック院長）

※「嚥下内視鏡検査の実際」

佐藤慎太郎先生（佐賀医科大学 耳鼻咽喉科）

※「CPAP使用中の患者のチェックポイント」

千葉伸太郎先生

（太田総合病院 睡眠障害医療センター所長）

※職員対象「聴力検査講習会」

二日目

※「黄砂・PM2.5の健康影響」金谷久美子先生（京都大学）

※「近年の小児難聴における進歩」

福島邦博先生（元岡山大学耳鼻咽喉科 講師）

■医療費抑制へ地域目標

都道府県ごとに 政府方針

政府は2016年度にも都道府県ごとに医療費の抑制目標を導入する方針。地域差の大きい一人あたり医療費のデータを分析して目標を設定し、達成状況を公表することで医療費がかかり過ぎている都道府県に改善を促す。今のペースで増え続ければ、それを賄うために個人と企業が負担する税金と保険料が過大になる恐れがあると判断した。社会保障制度改革推進本部が6月に有識者チームを立ち上げ、制度設計に入る。16年度をメドに具体多岐な目標を導入する方針。

地域別の目標は都道府県単位で運営する75歳以上の後期高齢者医療制度などで主に適用する。一人あたりの医療費は地域差が大きい。後期高齢者医療制度でみると、11年度の一人あたりの医療費は最も多い福岡県が115.3万円、最も少ない岩手県73.3万円の約1.6倍になる。政府はレセプトなどの電子データを分析し、入院日数や薬剤の量、後発薬の使用状況などの地域差を調べ、人口や年齢構成など医療費を左右する要素を勘案した上、地域の医療費の適正水準を見極め、都道府県ごとに目標を設定する方針。（日経新聞5月26日）

■混合診療「患者同意で」

規制改革会議が提言 安全確保条件に

政府の規制改革会議は混合診療について、患者と医師の同意を前提に拡大するよう提言する。診療の安全が確保出来ることを条件に、専門医や設備が整っている全国の医療機関に広げる。28日に開く会議で提案し、近くまとめる規制改革実施計画に盛り込む。規制会議は選択療養の実施期間として全国に数百ある「地域医療支援病院」などを想定している。ただ厚労省や日本医師会は「安全性を保てない」と慎重姿勢を堅持しており、6月にまとめる成長戦略でどこまで踏み込むかは安部首相の判断に委ねられそうだ。（日経新聞5月27日）

■レセプト審査の強化で査定額が増加中

審査支払機関がコンピューターによる審査を本格的に導入し、これまで見逃されていたであろうレセプトが査定されるケースが増えており、全国の査定金額は年間1000億円規模に上るとも見られている。

2012年3月に社保支払基金が、2013年10月からは国保連も、原則的に電子レセプトに対する「突合点検」と「縦覧点検」を開始、審査の効率が飛躍的に向上した。

支払基金における年間査定額は2012年度には300億円を突破、13年度には330億円に達すると予想されている。国保連における2012年度分の査定金額は309億円、さらに保険者の点検による減点分を併せると査定金額は1000億円規模に達すると推測される。

医療機関側の対策は、適応症だけでなく投与量や日数にも注意、行うべき再審査請求を放置しないなど。

（日経メディカル5月22日より抜粋）

◆第11回耳鼻咽喉科短期滞在手術研究会のご案内◆

日時：平成26年7月13日（日）9:00～

会場：崎陽軒本店4F「ダイナスティー」横浜市西区高島

会長：西山耕一郎（神奈川県 西山耳鼻咽喉科医院）

問合せ：岩野耳鼻咽喉科サージセンター

iwano-sc710@iwano-jibika.or.jp



GlaxoSmithKline 生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer

定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

処方せん医薬品（注意-医師等の処方せんにより使用すること） 薬価基準収載

アラミスト® 点鼻液27.5µg 56噴霧用

Allermist® 27.5µg 56metered Nasal Spray

 フルチカゾンフランカルボン酸
エステル点鼻液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元（輸入）
グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル
TEL: 0120-561-007 (9:00～18:00/土日祝日および当社休業日を除く)
FAX: 0120-561-047 (24時間受付)
2010.5

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会

〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F

TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228

HP: http://www.jenti.or.jp E-mail jimu@jenti.or.jp

当会への要望・意見・相談をお寄せ下さい